

「第三期阿南市子ども・子育て支援事業計画（案）」に対する
ご意見と市の考え方

No	ご意見（要旨）	市の考え方
1	長生保育所と本庄保育所は、児童一人一人に目が行き届き、自由な活動を保障する環境が魅力的です。大規模保育所への統廃合は、対応の不統一化や保育士の負担増加による離職率上昇などの問題を引き起こす可能性があり、保護者の送迎負担も増えるため断固として反対します。	既存の公立大規模保育所等においては、様々な工夫や努力により、子どもと保育士及び保護者と保育所の関係性の強化を図っております。また、子どもとの関わりは、保育士同士の連携・協力体制を確立し、保育所全体で統一をしております。その取組が生かされるよう集約された認定こども園においてもしっかりと対応して参ります。 「阿南市教育・保育施設整備実施計画（案）」では、施設の集約を進めるにあたり、子どもの発達段階に応じた適正な集団規模を確保し、同年齢、異年齢などによる多様な集団活動の場を提供することとしています。 さらに、公立幼稚園・保育所等の整備により集約される人的・物的資源を効果的に活用し、教育・保育内容の充実や安全・安心な施設環境の確保を図り、教育・保育の質の向上に努めて参ります。
2	本庄保育所では、現在、少人数ながら充実した保育が行われており、子どもの自主性を重視し、五感を使った体験活動が提供されています。その結果、子どもの好き嫌いが減り、自然への興味が深まるなど、個々の成長が見られています。少人数制で先生が一人一人と向き合える環境は今の保育に必要で、統合により子どもの数が増えることで、個別対応が難しくなる懸念や、先生方の負担増加や運営への支障が危惧されます。子どもと先生双方にとって最適な形を考えて頂きたいと思います。	「阿南市教育・保育施設整備実施計画（案）」では、「阿南市人口ビジョン（2024年策定版）」を基に、2060年までの各地区における公立教育・保育施設の入所児童数を推計し、今後15年を目途に全ての公立幼稚園及び保育所等を認定こども園へ集約することとしております。 本庄保育所では、令和7年4月入所で7人を予定しており、入所児童数（推計）では、令和12年（2030年）で8人、令和22年（2040年）で6人と予測しております。 本庄保育所だけでなく、本市の人口が減少することが予想される中で、適正な規模による集団保育が困難になることが考えられます。こうしたことは、子どもの社会意識形成のための集団生活が乏しくなるほか、保育士の分散を招き、保育事業を運営する上で非効率の一因となっており、結果的に保育の質の低下の原因となっております。

No	ご意見（要旨）	市の考え方
		持続可能な保育サービスを継続し、効果的・効率的な事業の推進に努め、保護者が安心して子どもを預けられる保育環境の整備に取り組んで参ります。